

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新訂 新しい道徳</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の最後に「考えよう」「自分を見つめよう」を設定して、どのような視点(道徳的価値)で思考していけばよいのか導く工夫をしている。 ○巻末に自己評価用紙「自分の学びを振り返ろう」が設けられていて、学期ごとに学習を振り返る際に役に立つ。 ○教材冒頭の見出しで内容項目に関連したテーマを設定することにより、授業が「ねらい」から逸れていかないようにするくふうがされている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に「情報モラル」に関する教材を配置し、SNS 上でのいじめ問題に対する意識を高めようとしている。 ○教材の形態がバラエティーに富んでいる。(読み物・マンガ・ワークシート) <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むごとに考える視点や視野が広がっていく(郷土→国→国際理解)よう、教材の設定が配慮されている。 ○学年の発達段階を考慮して教材が配置されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の始めに「話し合いの手引き」が掲載されていて、話し合いの手順やルールを具体的に示している。 ○「ACTION」を設定して話し合いや考えが深まるように工夫されている。 ○ロールプレイングなどの学習活動を意図的に行うことができるような教材が配置されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○Dマークが付いている題材では、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。 ○教材の文章の長さが学習にちょうどよい長さである。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○難解語句の脚注や、読みの難しい漢字へのふりがな、イラストや写真を用いた解説など、教材を読むときに違和感をもたないような工夫が見られる。 ○目次と教材の冒頭に学習指導要領の4つの視点が色とマークで示され、ねらいとなるテーマが示されている。 	
<p>総 括</p>	<p>生徒が、違和感なく「考えること」「話し合うこと」「振り返ること」といった学習活動を行うことができるよう工夫されている。また、学習の振り返りができるように工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">中学道徳 とびだそう未来へ</p>	<p style="text-align: center;">17 教 出</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○A B C Dの4つの視点のどれをどの教材で学ぶのかを示した一覧表が掲載されている。 ○導入と「学びの道しるべ」によって、自分に引きつけて考えることができるようになっている。また、巻末の「道徳の学びを深めるために」で問題解決的な学習への取組方法を示して、学習に主体的に取り組めるように工夫している。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○どの学年も「いじめ」「差別」「生命の尊さ」について深く考える教材が複数掲載されている。 ○「裁判員制度」「食品ロス」「消防団」などをテーマにした教材が掲載されており、目新しい。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○各学年の発達段階に応じて取り扱う教材の比重を変えており(1年生はAの視点の教材が多く、2・年生3年生と学年が上がるにつれてB・Cの視点が多くなっている)、思考を深めたり話し合いを深めたりする工夫がされている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○巻頭のオリエンテーションのページで「道徳科の学びを深めるために」と題して話し合いの流れを紹介し、学習に主体的に取り組めるように工夫されている。 ○教材末の「学びの道しるべ」に、自分の考えを基に話し合っって考えを交流させる問いが設定されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○昔から読み継がれてきた教材と、短めの教材、視覚に訴える教材が絶妙に配置されている。 ○郷土(埼玉県や秩父地域)に関連した教材が比較的多く掲載されていて、生徒が身近に感じる。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○UDフォントや見やすい配色(学習指導要領の視点が色とマークで示されている)、判別しやすい挿絵などが取り入れられている。 ○各教材に内容項目のマークが示されている。また、巻末に、4つの視点と内容項目一覧が示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>短め(読み込むのに適した長さ)の教材で、じっくり考えたり話し合ったりする時間を確保している。「学びの道しるべ」で流れとポイントをおさえることができるようになっている。</p>	

書名 項目	中学道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光村
内 容	<p> ＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○どの学年でも、4つの内容項目それぞれを同じ時間扱うように構成されている。 ○「見方を変えて」を設定して、視野を広げて考えるように工夫されている。 ○巻末に「学びの記録」を設け、学習の振り返りができるようになっている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ問題」「情報モラル」について、どの学年にも「深めたいむ」を配置して、3年間を通して考えられるようになっている。 ○全学年に、東日本大震災を題材とした教材が設定されている。 ○環境問題、国際理解、共生について、教材の後ろにコラムを掲載して、補助資料として活用できるように工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○1年間を3つのシーズンに区切って学びのテーマを設定し、学ぶ時期に結びつく授業となるように配列している。 ○学年の発達段階に合わせて、4つの項目に関する教材を傾斜をつけて配置している。また、重点項目については複数教材で扱い、生徒の意識を高めるように工夫されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○各学年に1教材、役割演技を取り入れた活動について提案している。また、演じる側と見る側に対して意識させたいポイントを示すことで、その質を高めるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○教材タイトル下のQRコードを読み取ることで、朗読や資料コンテンツにアクセスできる。 ○各教材に、内容項目の表示マークと記述がある。 ○教材がテーマごとに配置されていて、関連内容がまとめて構成されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○UDフォントや見分けやすい配色、判別しやすい絵柄が取り入れられていて学習のイメージを広げやすい。 ○難解語句の脚注や、読みの難しい漢字へのふりがな、イラストや写真を用いた解説など、教材を読むときに違和感をもたないような工夫が見られる。 </p>	
総 括	<p> ○授業開きと学びの振り返りを35時間の中に位置づけている。 ○教材ごとに「手引き」が設定されていて、学習が深まるように工夫されている。 ○学習が日常生活にフィードバックされるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学道徳 あすを生きる</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領で育成を目指している資質・能力である「3つの柱」を踏まえ、道徳科の目標の具現化に向けて、生徒の心身の発達段階や特性、学校や地域の実態を考慮して指導できるように配慮されている。 ○教材末に問いを設け、道徳性の育成につなげられるように工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年で「いじめの未然防止」が最重要テーマとして設定され、複数の教材とコラムを組み合わせたユニットを年間に複数配置して、集中的かつ継続的に考えられるように工夫されている。 ○全学年で情報モラルに関わる教材やコラムを掲載し、情報社会の倫理や情報セキュリティなどに関連する内容について、総合的に学習できるように工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階や、学校生活及び他教科等の内容や時期との関係、内容項目の関連を考慮し、複数の教材がユニット化され年間に複数配置されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「気づく」「考え、議論する」「見つめる、生かす」の3ステップで1時間の学習の流れを可視化してある。 ○「考え、議論する道徳」の実現に向けて、授業の導入から終末まで、生徒の思考の流れに沿った示唆や発問を設定することにより、自発的な思考を引き出す配慮がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○著名人やスポーツ選手を扱った教材、定番の教材、現代の問題を扱った教材など、幅広い分野の教材が用意されている。 ○QRコードが付いている教材は、デジタルコンテンツにアクセスすることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点を色分けして示している。目次は4つの視点を色分けして示している。 ○難解語句の脚注や、漢字へのふりがな、解説などの工夫が見られる。 	
総 括	<p>議論する発問例や自分に生かす発問例をあげてねらいに迫ることができるように工夫されている。「学習の進め方」では、話し合いや体験的な学習の流れを示し、道徳的価値を実践的なものにできるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">新・中学生の道徳 明日への扉</h2>	224 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学 研</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的対話的で深い学び」を実現するにふさわしい学習活動が随所に盛り込まれている。また、多面的・多角的に学んで道徳的価値を追求する問題解決的な学習や道徳的価値に関する体験的な学習に合った教材が掲載されている。て ○巻末の学びの記録で自分の成長を振り返ることができるようになっている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルに関するものは、情報の扱い方や情報を扱う際の配慮などについて各学年2教材ずつ用意してあり、考えが深められるようになっている。 ○「生命の尊重」と「いじめ防止」に関するものを各学年で3教材掲載し、自他の生命を尊重して他者とともによりよく生きることについて考えが深められるように工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ内容項目を扱う教材は、生徒の生活実態や発達段階を考慮して、内容の深まりや視野の広がりなどがなされるように工夫されている。 ○「命の教育」を重点テーマとしたものが、各学年に5～7教材配置され、教科書のコンセプトが明確に示されている。また、生命の尊重について考えるときに、発達段階に応じた思考の深まりが自覚できるように工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の前に主題を示さないことで、生徒が主体的に問題意識をもち、特定の価値観に縛られずに気づいたり考えを深めたりすることができるように工夫されている。 ○教材の下にキーフレーズを入れて、生徒が興味をもって深く考えられるようにしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県や秩父地域に関する教材や資料が多数掲載されているので、生徒が興味関心をもちやすくなっている。 ○教材の場面に合った写真、挿絵などの資料を掲載している。また、教科書全体が落ち着いた色使いで、学習を妨げない工夫がされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点を色分けして明記してある。目次と教材では、ユニットのテーマごとに色分けしてある。 ○難解語句の脚注や、漢字へのふりがな、解説などの工夫が見られる。 	
総 括	<p>重点テーマを「いのちの教育」として、内容項目「生命の尊重」の教材を各学年で3教材ずつ用意したり、「いのちの大切さ」について考える教材を複数用意したりして、「いのち」について多面的・多角的に考える授業が展開できるように工夫されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>中学生の道徳</h1>	<p>2 3 2</p> <p>廣あかつき</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本冊と別冊の分冊構成となっており、別冊ノートを活用して考えを深めたり、学習の振り返りを書き込んだりすることができる。 ○教材末尾の「考える・話し合う」では、学習の手がかりや、考えたり話し合ったりするときに必要な発問が用意されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命尊重を重視していて、「生命の尊さ」「人権問題・いじめ防止」に関する教材が充実している。また、それらの教材によって、発達の段階に応じてさまざまな角度から考えられるように工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むに従い、価値そのものを深く考え話し合うことができる教材や、問いが精選されている。 ○全学年に共通した登場人物(「アイツ」)を3年間通して配置し、学年の発達の段階に応じて共感的に考えられる内容になっている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」に内容項目ページと記録ページを設けて、生徒が「書くこと」とおして道徳的思考を深めることができるように工夫されている。 ○教材ごとに「考える・話し合う」を設定して、生徒の主体的・対話的で深い学びを促したり、問題解決的な学習を行う際に参考となったりするように工夫している。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○写真に加え、詩や表・図・グラフ・新聞などを適切に配置して、学びを助けるように工夫している。 ○定番教材を多く掲載するとともに、先人の伝記やさまざまジャンルで活躍する著名人、スポーツ選手に関する教材を配置し、生徒の興味関心のを高める工夫をしている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○難解語句の脚注や、読みの難しい漢字へのふりがな、イラストや写真を用いた解説など、教材を読むときに違和感をもたないような工夫が見られる。 ○教材の冒頭に学習指導要領の4つの視点を色分けし、マークで明記してある。 	
<p>総 括</p>	<p>教科書と道徳ノートの併用で、主体的な学習を促し生徒の心の成長を図るように工夫している。また、今日まで読み継がれてきた教材とともに他の教育活動と関連させて考える現代的な教材もバランスよく掲載して、広く学習できるように工夫している。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">道徳 中学</h1>	2 3 3 日 科
内 容	<p> <学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○教材末に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」を設け、教材に関わる発問や価値に関わる発問を示して、自己の生き方を見つめたり、どのように考え行動に移すかなどの道徳的問題を自分のこととして捉えたりすることで、道徳性の育成につなげられるよう工夫されている。 ○学習指導要領の内容項目順に教材を配置した4章立てになっている。 <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめ問題については、全学年で「いじめをなくす」「生命を尊ぶ態度」に関する教材を配置し、「正義」「寛容」「人権」「人間愛」などのさまざまな主題でも「いじめを許さない心」を育成するように構成されている。 ○情報モラル、キャリア教育、伝統と文化、他国尊重の心、人権、福祉、環境、遵法、生命の連続性、社会参画など、多岐にわたるテーマの教材を配置している。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○巻頭に、道徳科で何を学ぶのかについてのオリエンテーション資料が掲載されている。また、教科書の効果的な使い方についても示されている。 ○各教材の冒頭はタイトルのみの掲載である。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○書き下ろしのオリジナル教材が豊富で、学校現場を経験し中学生の悩み、夢や希望に日々関わっている教師が執筆したものが多い。 ○考えが一つでない道徳的な問題を、一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、「考えることができる」「議論することができる」よう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> 巻末には1ページの大きさや見開きなどで、大きくインパクトのある写真が掲載され、教材の理解を助けたリイメージを膨らませたりできるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○各題材末にある発問内容が大きい文字で記載されている。 ○難解語句の脚注や、読みの難しい漢字へのふりがな、イラストや写真を用いた解説など、教材を読むときに違和感をもたないような工夫が見られる。 </p>	
総 括	<p> 教材のタイトルのみを掲載することにより、特定の価値観を押しつけないようにしている。内容項目別の章立てになっているため、教科書の順番に縛られることなく教師の方針によって教材の順番を入れ替えてより効果的な授業を展開することができる。 </p>	